

特集 1

第1回 フレンドシップサロン

～中堅・中小企業と教授・名誉教授との新たな連携～

主催：大阪商工会議所、(社)生産技術振興協会 後援：大阪市経済局他 協力：りそな銀行

開会挨拶

〈社団法人 生産技術振興協会 事務局長／巽 昭夫〉



事務局長
巽 昭夫氏

皆様、こんにちは。本日は足元の悪い中にもかかわらず、115名に近い方々にご参加いただきまして誠にありがとうございます。主催者を代表しまして、一言ご挨拶を申し上げます。本日は「第1回フレンドシップサロン～中堅・中小企業と教授・名誉教授との新たな連携～」と

題し、こうしたセミナーを開催させていただきました。主催は大阪商工会議所様と生産技術振興協会でございます。

生産技術振興協会について簡単に紹介をさせていただきます。当社団法人は昭和24年、松下幸之助様と当時の大阪大学総長の話し合いの中で戦後復興において産学連携が最も必要になるとの提案をいただき、産声を上げたのです。以来63年、当協会は大阪大学の関連社団法人として産業界と大阪大学の先生方を結びつける役割を果たして参りました。

昨今の社団法人改革にともなって今年度からは大阪大学関連社団法人から外れ、大阪大学に限らず多くの大学とも連絡をとって産学連携を進めていくことになりました。産学連携、ビジネスマッチングという言葉は多く聞かれ、様々な所で開催されています。うまくいっている事例もあれば、なかなか火がつかないという事例もございます。それなりに原因があると思いますが、一つには「勝負は天の時、地の利、人の和」ということがございまして、タイミング的に機が熟していなかったのかもしれない。あるいは、いろいろな失敗例を重ねて次のステップに持っていく、ステップアップの時代だったのかもしれない。

先ほど申しましたように社団法人改革の中で、各

法人がこぞって公益活動を始めようとする時代であります。我々の社団法人もますます公益活動をしてまいりたいと思います。その一つの例として、お手元に「生産と技術」という雑誌の表紙コピーをお配りしましたが、季刊誌として大阪大学の最新情報を掲載してきたのですが、このたびはこのような別冊「震災特集」を発行することにしました。(紹介記事-1参照)これは大阪大学教授陣による緊急出版でございます。購読希望の方はぜひインターネットを通じてお申し込みください。「地の利」ということでは、大阪大学は吹田、豊中と学舎が分かれていて、少し遠くて敷居が高い面があります。大阪商工会議所は大阪府中央区にあり、当協会は会議所ビルの中に入れていただいております、皆様には気軽にお越しいただける場所にあります。



紹介記事-1 日刊工業新聞 2011年7月8日

最後に「人の和」でございます。我々はビジネスマッチング、産学連携をしたいのですが、その手前の段階として「友達になる」「気心を知る」「互いの性格を知る」「先生方の得意分野を聞く」、そういった中で企業の悩みを解決していく。少し時間がかかるかもしれませんが、「お友達になる」時間が必要

だと思っております。今回を第1回としたのも、これから2回、3回と回を重ねていきたいと考えているからでございます。こうした機会をご利用いただきまして、今までにない産学連携につなげたいと思います。

あるマスコミの方が事務局に来られ、「この連携は『産学金』の連携だ」と言われました。(紹介記事-2参照)「金」とは金融機関のことでございます。本日お配りした資料にありますように、このような多くの金融機関のお力添えをいただいております。大阪市信用金庫様、大阪商工信用金庫様、りそな銀行様、大阪市経済局様、商工中金様、そして社団法人大阪大学工業会様。このような皆様の協力の中でフレンドシップを温めていき、最終的に産学連携がスムーズに進み、少し停滞気味の大阪の産業が活発になればと願っております。

本日は5時半までの長丁場ではございますが、よろしくお付き合いいただけますようお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

産学金サロン始動

大阪で交流会事業

中堅・中小
経営者向け

生産技術振興協会

列島・中小・ベンチャー

阪商工業会連中協中小企業委員長をつとめる身ラヤ(同来住吉区)の重家徹介社長や、大阪大学の赤松史郎教授、プロアシスト(同中央区)の生駒京子社長ら100人以上が参加して、マイドームおおさか(大阪市中央区)で開く。

同協会は大阪大学と関西学院が協力して1949年に発足。機関誌発行や生産技術に関するセミナーなどを開催している。

開催を決めた。このため同サロンでは、通常のマッチング会のように成功例の自慢げな話は避けて、相談や意見交換を通じて、中小企業の社長と大学教授がより良い関係を構築すること(「開閉去賓務局長」を重視する方針)。

第1回のサロンは、大

が少なく、同協会は、中堅・中小企業と大学のマッチングを成功させるために、大学が研究テーマを提示し、企業が技術をアピールするだけでなく、相互理解を深めること

が少なく、同協会は、中堅・中小企業と大学のマッチングを成功させるために、大学が研究テーマを提示し、企業が技術をアピールするだけでなく、相互理解を深めること

が少なく、同協会は、中堅・中小企業と大学のマッチングを成功させるために、大学が研究テーマを提示し、企業が技術をアピールするだけでなく、相互理解を深めること

紹介記事-2 日刊工業新聞 2011年6月20日

